Lead

All roads lead to the future リード

高知大学
Kochi University

コミュニケーションペーパー
2019 Spring 春号
No. 029
¥0 TAKE FREE

櫻井学長から新入生へのメッセージ

高知大学は
「スーパー・リージョナル・ユニバーシティ」を
目指します

まなびの時間 教職大学院
土佐の皿鉢ゼミ

Action！ 地域×高知大学
IoPが導く「Next次世代型農業」への進化

ぼくらのキャンパスライフ
高知大学生のキャンパスライフ

高知大学ニュース

高知大学は「スーパー・リージョナル・ユニバーシティ」を目指します。

学長から、学生の皆さんへ、

Try for Super Regional University

そして地域の皆様へ

高知大学 学長
櫻井 克年（さくらい かつとし）

高知大学は、全学体制で優れた人材を社会に送り出します

高知大学は、大規模な全学部改組を実行し、地域協働学部という日本で初めての学部の創設に始まり、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農林海洋科学部が新たに生まれ変わりました。医学部も地域になくてはならない存在です。今やまさに、「地域の大学」として先頭に立って地域を支えていく高知大学の基盤となる学部組織は整いました。

高知大学のミッションは「Super Regional Universityへの飛翔」

地域への貢献が、今の高知大学の最大のミッションです。「地域の」という意味の"リージョナル"という言葉を冠し、まさに全国でトップの地域と密着した大学であろう、という思いを込めています。現在でも、全国の大学でもこれほど密接に地域と連携している大学はない、と自負しています。今後はさらに、地域とのより成熟した関係の在り方を示していきたいと考えています。

高知大学での学びの基本設計

教育の基本として「地域協働型教育」を進めています。すべての学部が県内各地を学びの場とし、また地域の皆様を先生とし、地域の課題に取り組んでいます。それが高知大学の教育の基本であり、近年、それが見える形となって表れてきました。

研究分野においても、"地域"をターゲットにしたものから、世界最先端の研究まで幅広く取り組んでいます。なかでも、山から海、海底まで、高知県は自然環境に関する研究テーマの宝庫です。素晴らしい自然環境の中、世界的な研究成果が次々に生みだされています。

現在、高知大学は「THE世界大学ランキング」で世界の大学のトップ5%に入っており、特に研究力で高い評価をいただいています。研究成果を、積極的に学生教育にフィードバックしていくことが大切だと思っています。

「地域から世界へ、世界から地域へ」

生徒や学生の皆さん、大学に入学することそのものは、目的ではありません。自己実現をするための手段です。大学での学びは、生きた知識の習得であり、それが未来の日本社会や世界の基盤を創造していくのです。希望者には全員、留学経験を提供できるように計画中です。皆さんの前にはあらゆる可能性が広がっています。自らの手で、ぜひ積極的に掴みに行ってください。

結びに

高知県の地域の皆様、高知大学は、「地域に貢献してなんぼ」だと思っています。今後とも、私たちの取組をご支援ください。また、公開講座や科目等履修生の制度など、学びの場も設けています。もう一度学んでみたいと思われる方は、ぜひ高知大学にお越しください。

各学部教授からのメッセージ

PROFILE

大阪府出身。京都大学農学部農芸化学科、卒業。同大学大学院農学研究科、単位取得満期退学。農学博士。専門は土壌情報解析学、熱帯土壌学など。1989年、高知大学に着任。「高校生の頃は外交官かミュージシャンになろうとボンヤリ考えていました。それが、"土壌"という地味な分野の学問をすることになって、しかも始めたら抜けられず…。気付いたら研究者になっていました」

人文社会科学部

人文社会科学部のなかには、哲学・歴史・文学・心理学・経済・経営・法律など、いくつもの学問の扉があり、多様な文化や社会を理解する機会があります。皆さんが在学中に多角的な視点を身に付け、地域で、世界で、いろいろな人と手を携えて活躍する力をつけていくことを期待します。

人文社会科学部長
中川 香代（なかがわ かよ）

●所属
人文社会科学系
人文社会科学部門・教授
●専門分野
経営学

医学部

医学はアートとサイエンスであると言われます。目の前の患者さんに対して真摯に向き合うアートとして医療を行い、ヒトの精神と身体の構造と機能をサイエンスとして追求してこそ、医学を実践する者となることが出来ます。地域医療の実践と最先端の医学研究は、実は表裏一体という医学のアートとサイエンスを共に探求していきましょう。

医学部長
菅沼 成文（すがぬま なるふみ）

●所属
医療学系
連携医学部門・教授
●専門分野
産業医学、環境医学、国際保健学

理工学部

理工学部の皆さん、私が、大学の４年間で身に付けて欲しいと思っている能力の一つに「課題発見・課題解決能力」があります。この能力は、共通教育、基礎と応用の両輪を学ぶ専門教育、課外活動、そして４年間の皆さんの日常生活を通して培われる総合力です。４年間の過ごし方次第で、卒業時の能力が決まってくるのです。様々なことにチャレンジして、充実した大学生活を過ごしてください。

理工学部長
鈴木 知彦（すずき ともひこ）

●所属
自然科学系
理工学部門・教授
●専門分野
生化学

教育学部

人は他人や人間的世界とかかわることでのみ人として成長することができます。人の成長にかかわるためには、多様な他者や複雑な人間的世界に精通しておくことが必要になります。新入生の皆さんは、教育学部のカリキュラムのなかで、実に多様な他者や驚くほど複雑な世界に出会うことになるでしょう。4年後の皆さんの成長を楽しみにしています。

教育学部長
岡谷 英明（おかたに ひであき）

●所属
人文社会科学系
教育学部門・教授
●専門分野
教育哲学
教育史

土佐さきがけプログラム

土佐さきがけプログラムの各コースが軸足を置く学問分野はそれぞれ異なりますが、いずれのコースでも、関連する様々な分野の学問を横断的かつ総合的に学ぶことができます。幅広い知識を統合して物事を考える力と社会への発信力を身に付け、現代社会が抱える様々な課題の解決に、グローバルな視点で積極的に取り組む人材に成長してくださることを期待しています。

運営委員長
岩崎 貢三（いわさき こうぞう）

●所属
総合科学系
生命環境医学部門・教授
●専門分野
植物生育環境学

地域協働学部

地域協働学部では、学生同士、教員と学生、そして地域と学生による協働を通じて地域協働のリーダーを目指します。(1)実習では、地域の人たちとの協働を通じて、徹底的に地域に向き合い、600時間に及ぶ実践的学びを行います。(2)演習では、教室での学びと実習での学びを活かして「地域」や「協働」に関する自らの理論を構築し、それを学年末論文にまとめます。一緒に頑張りましょう。

地域協働学部長
上田 健作（うえだ けんさく）

●所属
総合科学系
地域協働教育学部門・教授
●専門分野
非営利組織論
公益事業論

農林海洋科学部

農林海洋科学部は、天然資源を利活用して人間社会の食とくらしと環境を支えることを目標として、従来の農学に、莫大な未利用資源の存在が明らかになっている海洋科学の視点を加えて平成28年春にスタートしました。高知県は、山から深海に至る実学教育のフィールドが身近にすべて揃っており、この学問領域を学ぶに格好の地です。高知で過ごすことのすばらしさを自身で体感してください。

農林海洋科学部長
尾形 凡生（おがた つねお）

●所属
自然科学系
農学部門・教授
●専門分野
果樹園芸学

土佐の皿鉢になぞらえた実践研究発表会

土佐の皿鉢ゼミ

高知県の教育課題の解決を目指す高知大学教職大学院。2019年2月大学院生と教育関係者が意見交換する独自の実践研究発表会「土佐の皿鉢ゼミ」が開かれました。活発に意見が交わされた模様をレポートします。

理論と実践の融合が教職大学院の特徴

高知大学の教職大学院は2018年4月、高度な教育実践者を養成することを目的として開設しました。「理論と実践の融合」がキャッチフレーズで、3コースを設けています。

「学校運営コース」では、組織的な取り組みをリードできる高度な実践的指導力を育成します。「教育実践コース」では、子どもたちに質の高い学びを保証する高度な実践的指導力を育成。「特別支援教育コース」では、1人ひとりの障害に合った個別の指導計画の立案、実践、指導効果の検証などをテーマとします。

教職実践高度化専攻長
柳林（やなぎばやし） 信彦（のぶひこ）さん

どのコースも、高知県の教育に徹底的にこだわっているのが特色です。県内の教育現場から派遣された現職院生や学部卒院生が、実習校等での課題をテーマに、その解決に向けて研究。学びの成果を年2回開催される「土佐の皿鉢ゼミ」で発表します。

皿鉢とは、高知県の郷土料理で、大皿に多彩な料理をたっぷり盛り込み、大勢で食べる宴会料理。研究発表会は様々な教職大学院で行われていますが、この「土佐の皿鉢ゼミ」は一方的な発表をする場ではないことが大きな特徴です。院生のほかに大学教員や実習指導者、教育委員会と学校の先生方など、教育関係者が一堂に会して、それぞれの視点から教育課題を分析。課題解決に向けて積極的に意見交換も行うユニークな試みです。

「第2回土佐の皿鉢ゼミ」は2月3日9時30分にスタート。柳林専攻長の開会あいさつに続いて、高知県教育委員会の長岡幹泰教育次長が「高知大学教職大学院の院生に期待すること」をテーマに講話をしました。

「院生は学校現場で積み重ねられてきた様々な技術や知恵を持っていることでしょう。教職大学院で学ぶことによって、それらを理論付けられたサイエンスにして、知の体系を作っていただきたい。本県の教育をバージョンアップさせるリーダーとして成長されることを期待します」

その後、いよいよ院生による研究発表。2会場で、1テーマにつき約1時間のプレゼンテーションを行い、引き続いて、それぞれの発表に関する意見交換の時間が設けられました。

高知県教育委員会
教育次長
長岡（ながおか） 幹泰（もとやす）さん

院生の研究発表後 積極的に意見交換

「学校運営コース」は、学校経営計画の効果的な運用の仕方と、学校組織マネジメントについてプレゼンテーション。学校運営にマネジメントを取り入れることにより、合理的な思考を深めることができる、といった研究成果を発表しました。

協議の時間、「研究は現場に浸透するのか？」という質問を受け、「どの学校でもできるシステム設計をするのが重要。現場で効果を見せて仲間を増やし、高知県の教育の向上のために取り組んでいく」と院生が答えた姿が印象的でした。

「教育実践コース」は2グループに分かれて研究発表。学級経営・道徳教育についてのグループでは、「子ども同士が関わり合って学ぶには？」といった投げかけのもと、少人数のグループ討議を行いました。

もう1つのグループは、中学校の数学と英語教育がテーマ。

「子どもの学びを充実させるため、指導者には何が求められるのか？」という主題に沿って話が進められました。

最も院生の多い「特別支援教育コース」は3つのグループで構成。①特別支援学校における指導・支援の充実、②小学校と特別支援学校での早期支援、③中学・高校の二次障害予防―という、まったく異なる観点からの研究を発表しました。

それぞれ、充実したプレゼンテーション。例えば、①の特別支援学校をテーマにしたものでは、アセスメントの活用や指導の展開、個別の指導計画の共有と有効活用が重要、との発表がありました。また、口頭発表に加えて、学会で行われるような「ポスター発表」もありました。

口頭発表と意見交換が終わったのち、全体会が行われ、各コースの院生代表が研究を簡潔にまとめて発表。各会場でどういった意見交換や協議があったのかについても紹介しました。

まとめの発表に続いて、院生の実習先である四万十町立大正中学校の須内康雄校長から、「教師になってある一定期間がたったら、もう1回学び直しをするといい、と先輩から教わりました。教職大学院はまさにそういった場だと思います。本校に関連する院生の研究は、道徳がテーマ。本校が重視している人間関係づくりにマッチしているので、とても助かっています」と話しました。

四万十町立大正中学校
校長
須内（すうち） 康雄（やすお）さん

午前と午後の部で計7時間以上にわたって開かれた「土佐の皿鉢ゼミ」はこうして終了。教職大学院は4月以降、2期生が加わって、高知県の教育の課題解決に向けて、研究が一層進められます。

●学校運営コース
澁谷 具恵 さん

様々な立場の方から意見をいただき、すごく貴重な経験をしました。今後、足りない部分を補い、まず自分の学校に返して、さらに様々な地域の学校で活用できるように研究を進めていきます。

●教育実践コース
村田 由香梨 さん

研究発表では、自分では見えていない部分についての意見をいただき、立ち位置を見直すことができました。研究を現場でどう還元していくか、ということも考えながら、2年目の研究を進めていきます。

●特別支援教育コース
小川 裕代 さん

皿鉢ゼミでいただいた意見を踏まえつつ、2年目は地域支援の視点から実習・研究を進めていきます。現場に戻った時、アセスメントや指導方法の助言ができるように、残り1年を過ごしていきたいと思います。

研究の汎用性を高めるため「皿鉢ゼミ」は重要

教職大学院に来る現職の教員は、現場で子どもたちを見ながら課題を見出し、明確な意欲とプランを持って学んでいます。地域の課題を背負って学び、地域に戻って解決する。教職大学院はこうした地域貢献を果たすための場でもあります。

研究は汎用化されて現場に支持され、学級・学校経営に活かされるのが一番でしょう。そのために重要なのが、独自の取り組みである「土佐の皿鉢ゼミ」です。院生の課題解決に向けた知見を取り上げ、多くの教育関係者と共有し、率直な意見をいただく。この検証により、研究が独りよがりになることを防ぐことができます。次回以降も、大いに期待していただければと思います。

高知大学
教職実践高度化専攻
附属学校教育研究センター長
兼　副専攻長
永野（ながの） 隆史（たかふみ）

県の教育課題の解決に向け高知大学と強い連携を

高知県の教育現場には現在、学力面や問題行動といった様々な課題があります。教職大学院が開設するに当たって、県教育委員会からお願いしたのは、こうした教育課題を研究対象にしてほしいということでした。研究に向けては、具体的なフィールドが必要になるので、県教育委員会では実習先との連携を図っています。加えて、実習のコーディネーター役となる指導主事を派遣し、高知大学連携担当チーフとして配置しています。

教職大学院に行けば、高知県の教育課題が解決でき、学校の課題も解決でき、自身の授業力も向上する。今後こういう評価がますます広まり、教育の現場から、「自分も学びたい」と一層、手が挙がるようになると思います。

高知県教育委員会
事務局 教育政策課長
酒井（さかい） 啓至（けいじ）さん

Action! 地域×高知大学

IoPが導く「Next 次世代型農業」への進化

高知大学が参画する高知県の産学官プロジェクト『"IoP(Internet of Plants)"が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化』が2018年10月、内閣府の交付対象事業に採択されました。中心研究者である九州大学大学院の北野雅治教授とIoP事業推進室長を務める高知大学次世代地域創造センター副センター長の石塚悟史准教授にプロジェクトの内容をお聞きしました。

世界初のプロジェクトが高知県でスタート!

IoP事業はAIやビッグデータを活用し、産学官の連携で10年間に渡って推進する大型プロジェクト。生産性日本一を誇る高知県の施設園芸農業がさらに飛躍的に発展することを目指しています。まず、プロジェクトの意義について、事業のIoP研究分野を指揮・統括する北野先生に説明してもらいましょう。

「ICT(情報通信技術)を活用する農業のスマート化を目指す政策によって、温度や湿度などの環境センサーが営農現場に普及してきましたが、生産量や品質を決定する作物の光合成、成長などの生理的なプロセスの情報は、営農現場での測定が困難なために、全く利用できていません。高知のIoPプロジェクトは、天候などによって日々変化する光合成、成長などの生理的情報や流通関連情報を農家に提供することによって、施設園芸農業のイノベーションをめざす社会実験です。世界初の最先端の社会実験が高知で始まったのです」

プロジェクトは「平成30年度地方大学・地域産業創生交付金」の交付対象事業。全国の大学から7件採択されたなかで、農業分野はこのIoP事業のみ。園芸王国、高知の特色を前面に出した取組として、大いに注目されています。

高知大学のほかに高知工科大学、高知県立大学、高知県、高知県農業技術センター、JA高知県などが加わって、プロジェクトチームを編成。北野先生はクロスアポイントメント制度(複数の大学と雇用契約を結ぶこと)を利用し、IoP事業に取り組んでいきます。

AIを活用して高知の施設園芸をビッグデータ化

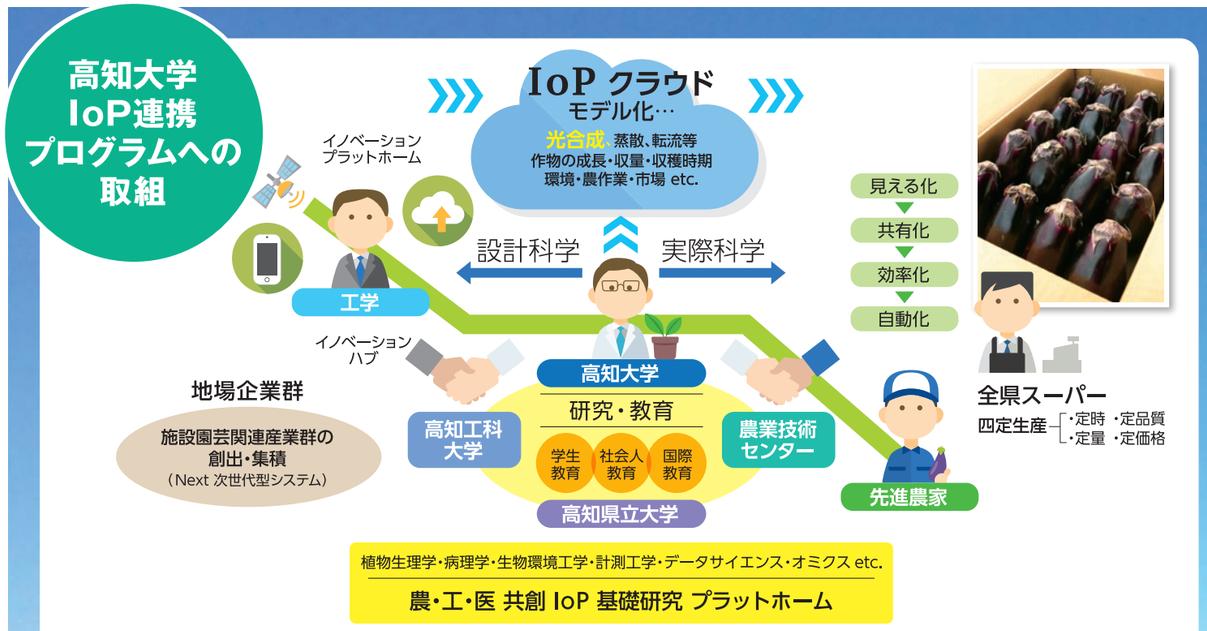
平成30年度にスタートしたばかりのIoP事業。今後、どのように進められるのでしょうか。北野先生によると、「環境センサーで測定される光強度、気温、湿度、二酸化炭素濃度の情報があれば、作物がどれだけ光合成をしているか等の時々刻々の生理情報を農家さんに提供でき、農家さんも作物の生理情報に基づいた営農技術の工夫が可能になります。さらに農家さんの協力をいただいて、出荷、品質などの情報も集めて、日々の作物の生理情報と農家さんの技術が反映された出荷、品質情報との関係をAIに学習させることによって、農家ごとの出荷予測や技術の診断、改善が可能になる仕組みです。高知全県で情報の集積と一元管理を行うことによって、世界に例をみない農業ビッグデータが、高知県の貴重な知財として形成されると思います」

農家はこのビッグデータにアクセスすれば、栽培に活用できる様々な情報を得られます。優れた篤農家の栽培技術を産地で共有できるのですから、こんな心強いことはないでしょう。このシステムがうまく回り出すと、農業を始めたばかりの新規就農者であっても、ある一定レベル以上の作物を育てることができそうです。

しかも、IoPによって得られる情報は、品質や収量の向上に役立つだけではありません。市場の状況を見たうえで生産調整をして、高く売れる時期に収穫できるようにすることも可能です。あるいは、今の状態なら10日後に収穫することになるが、ちょっと人手が足りない…といった場合も生産調整をして、労働力を確保することができます。

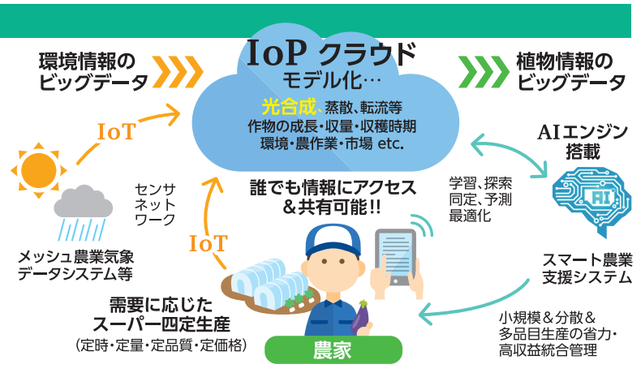
「IoPを活用すれば、将来的には産地の技術がどんどん高いほうにシフトしていきます。IoPを定着させて、若い人がこの新しい技術に興味を持ち、高知の施設園芸で人生設計ができるようにしたい」と北野先生は力強く語ります。

高知大学　特任教授
九州大学大学院　教授
北野（きたの）　雅治（まさはる）さん
九州大学農学部卒業。博士(農学)。北海道開発局土木試験所、九州大学を経て、2001年から高知大学に6年間赴任。「高知には思い入れがあるので、IoP事業には積極的に関わっていきます。高知大学時代の教え子のなかには、このIoP事業のメンバーになっている研究者もいますよ」



IoP(Internet of Plants)とは

ICT、IoT、AI が有する機能(情報収集、可視化、予測、最適化、学習、自動化等)を、農業者の「働きかけ(環境調節、営農管理、育種、機能性強化等)」の省力・自動化、最適化、見える化、普遍化等に活用できる基盤として、作物の多様な生理生態、生育、環境、農作業、市場などの情報をインターネット上で活用できる Internet of Plants (IoP) を実現する必要がある。



国内外から学生が集まる「キラリと光る地方大学」へ

IoP事業は、国が推進する全国や世界中から学生が集まる「キラリと光る地方大学づくり」に向けた取組でもあります。高知大学次世代地域創造センター副センター長の石塚悟史先生に説明してもらいました。

「施設園芸の研究なら日本でトップ、世界でも有数な研究をすることで、国内外から研究者が集まってきてほしい。そして、学んだ人が高知で活躍し、地方創生に資するような取組を目指しています。高知大学は、新たな目標として高知という地域に軸足を置いた『スーパー・リージョナル・ユニバーシティ』になることを掲げており、その大きな柱になるようにしたいと考えています」

IoP事業は「医農工連携」で取り組んでいくのも大きな特徴。農林海洋科学部の農業技術をフル活用、ビッグデータ活用の分野では高知工科大学や情報工学分野の研究者との連携が欠かせません。作物の健康増進効果や機能性については、医学部の専門領域です。大学での教育は、修士課程のプログラムを県内3大学で作成中で、もちろん学部教育も行います。

オール高知大学のみならず、オール高知県で推進するIoP事業。「ビッグデータが本当に価値のあるものになれば、県外からアクセスすることによって高知が潤う仕組みになります。さらに今後、世界規模で食糧供給が一層重要になるので、海外にサービスを提供し、その対価が入って来ることも考えられます。高知の産業振興を支え、将来的には国益にもつながる。夢はどんどん広がっていきますよね」と石塚先生は話します。

北野先生も今後、少子高齢化と南海トラフ地震に関連し、IoP事業の重要性が一層高まると考えています。

「農業の世界では、あと10年ほどで団塊の世代がほとんどリタイアし、次代を担う新規就農者が必要になります。そのとき、このIoPが大きな力になるはずです。また、巨大地震が発生した場合には、特に平野部の施設園芸の復興に非常に役立つでしょう。若い世代が真正面から向き合うべき研究だと思います」

高知発の壮大なプロジェクト。これから大きなうねりを巻き起こしそうです。

次世代地域創造センター
副センター長　准教授
石塚（いしづか）　悟史（さとし）
高知大学農学部卒業。愛媛大学大学院連合農学研究科修了、博士(農学)。(独)科学技術振興機構を経て、2004年、高知大学地域共同研究センターへ。小学生の時、アフリカの飢餓の問題を知り、農学部を志望。「IoP事業の面白さに触れて、研究者になりたいと考える学生が増えればうれしい」

ぼくらのキャンパスライフ
高知大生の今にエール!

3つのキャンパスの人の学生に学生生活を聞きました

高知大生は、どんな学生生活を送っているのかな?朝倉、物部、岡豊の3つのキャンパスで、学生たちに話を聞いてみました。

集中できる図書室で勉強中

色々なサークルや部活があって課外活動も楽しいですよ!

留学は様々な経験ができますよ!

岡豊キャンパス

子どもの頃、よくお世話になった耳鼻科か眼科の医師を目指しています。

高知大学を選んだのはなぜ?
受験した年、高知大学の受験科目に英語が追加されたので、これは自分向きだと思って受けることにしました。英語が一番得意なんです。

あなたが学んでいることは?
例えば、「手を握る」といった何でもない動きについても、様々な神経や筋肉が関与していることを学べます。当たり前だと思っていたことの仕組みがわかり、すごく楽しいですね。また、医師はどうあるべきか、といった心構えなども教わっています。

課外活動はやってる?
バドミントン部と合唱部を掛けもち。練習が週5日入っていて、今はバイトを入れるすき間がありません。バドミントン部では西日本医科学生総合体育大会に出場しました。合唱部では介護老人ホームやイオンの音楽ホールなどで演奏会を開いています。

高知の好きなところは?
とにかく、ご飯がめっちゃおいしい! 特にカツオのたたきは、どんだけ食べても飽きません。塩で食べられるなんて、多分、高知だけじゃないですかね? じつは昨日も食べました。自然がきれいなのもいいですね。海水浴やラフティング、ドライブなどを楽しんでいます。

将来の目標は?
子どもの頃、耳鼻科や眼科にたびたびお世話になっていました。その分、今度は人を助けたいと思って、医師を目指しています。父が医師で、患者さんとの触れあいなどの話を話していた影響も大きいですね。

医学部医学科2年
青木 凛之介(あおき りんのすけ)さん
和歌山県出身

朝倉キャンパス

大学で学んでいることは?

近・現代の日本文学について専門的に勉強したいと考え、いまはそれに関する講義を選んで出席しています。僕は、特定の作家を研究するというより、面白いと思う作品を繰り返し読み込んでいくタイプです。これから多くの作品を読み進め、卒論の研究テーマになる作品を見つけたいと思っています。

留学について教えて
2018年8月から5カ月間、ノルウェーの「インランド・ノルウェー応用科学大学」に留学しました。高校生の頃から海外の文化に触れてみたいと思い、大学では絶対に留学しようと考えていました。国際連携推進センターに相談し、協定校の中で文学や言語学の授業がある大学を選びました。留学当初は英語のコミュニケーションに苦戦しましたが、そういう苦労も全部ひっくるめて、いい経験ができたという充実感がありました。現地の学生の学ぶ姿勢にも刺激を受けました。何より、留学をやり遂げたことで自信がついたというのが、一番の収穫です。

ノルウェーの大学に留学 夢を果たし、自分に自信がつきました。

課外活動は何をしてる?
陸上部に所属し、高校時代から続けている長距離走の練習をしています。実は留学先では、オスロマラソンに出場しました。部活は週3回ですが、グラウンドに行けば必ず誰かが練習しています。部活の仲間や先輩、後輩がいるグラウンドは、僕にとって落ち着く場所。みんな熱い姿勢で練習に取り組んでいます。

将来の目標は?
まだ漠然とした希望なのですが、留学経験を活かして、日本に置かれている外国大使館のようなところで働けたらいいな、と思っています。

人文社会科学部
人文科学コース2年
郡 健帆(こおり かつほ)さん
鳥取県出身

物部キャンパス

わからないことを学ぶ その難しさと喜びを実感中です。

高知大を選んだ理由は?
高校生の頃から食品について興味がありました。高知大を志望したのは、食品科学の全般的な勉強ができるからです。高校からバレーボールを続けてきたので、女子バレー部があることも決め手になりました。

いま、どんなことを学んでいますか?
3年後期から研究室に配属されました。発酵や酵素、醸造を研究する応用微生物学研究室で、ヨーグルトの乳酸菌にβ-グルカンという食物繊維を入れたら菌の生育がどう変わるのか、という機能性を研究しています。まだわかっていないこと、答えがないことを追求していくのは難しいですね。でも、新しく取り組む研究テーマもあって、とても楽しみです。私の卒業後も続く長いスパンの研究ですが、最終的には新商品の開発につながればいいかな、と思っています。

キャンパスの雰囲気はどう?
物部キャンパスは、自然がいっぱいで広々とした環境。出身地の島根に近い雰囲気で、安心感がありますね。私自身は実験室にこもる毎日なのであまり活用することはないのですが、農場もキャンパス内にあるなど、ほかの学科にとってはとても恵まれた学びのフィールドだと思います。

プライベートはどんなことをしていますか?
いまは研究室での実験や就活があるので抑えていますが、バレー部の練習は週5日。バイトも週3日くらいやっていました。「よさこい祭り」にも参加したし、高知で2月に行われた龍馬マラソンではフルマラソンにチャレンジ。忙しいけれど、本当に充実した毎日です。

農林海洋科学部
農芸化学科3年
奥原 歩音(おくはら あゆね)さん
島根県出身

高知大学ニュース

COC/COC+全国シンポジウム「見える大学・魅せる大学」を開催

２月19日～20日、「全国ネットワーク化事業-平成30年度COC/COC+全国シンポジウム-見える大学・魅せる大学」を高知市で開催し、全国の大学や県内自治体関係者ら約300人が参加しました。本シンポジウムは、文部科学省が進める「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の一環として、平成25年度から、全国のCOC及びCOC+実施機関の取りまとめ校として高知大学が開催してきました。

シンポジウムは、櫻井克年学長による開会挨拶、尾﨑正直高知県知事の開催地挨拶（代読）、文部科学省総合教育政策局の中野理美地域学習推進課長の挨拶に続き、ジャーナリスト・「未来の年表」著者で、高知大学客員教授を務める河合雅司氏から、「人口減少日本でキラリ輝く大学」と題した基調講演が行われました。また、グーグル合同会社執行役員の中谷公三氏から、「地方大学のブランド戦略に今求められているもの」と題した話題提供がありました。

続いて、「大学の見える化と魅せる化」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、㈱ヒワサキ取締役相談役の日和﨑二郎氏、富山大学教授の金岡省吾氏、高知県産業振興推進部副部長の澤田博睦氏、㈱第一コンサルタンツ（地方創生推進士、高知大学OB）の岩瀬誠司氏から、それぞれプレゼンテーションが行われ、地方創生に向けた大学の役割が深く掘り下げられました。

２日目の事例発表会では、4大学（徳島大学、信州大学、岩手大学、共愛学園前橋国際大学）の取組が紹介されるとともに、各事例について活発な意見交換が行われました。

文部科学省総合政策局の中野理美地域学習推進課長による挨拶

河合雅司氏による基調講演

パネルディスカッション

防災推進センターシンポジウム「高知大学は貢献します-高知県の防災への取組-」

南海トラフの地震、台風、洪水、斜面災害等、多様な自然災害の発生リスクをかかえる高知県において、高知大学防災推進センターの研究活動や、これまでの高知県の防災への取組を紹介することを目的とし、2月16日に高知市内でシンポジウムを開催しました。

第一部では、四国地方の地震観測、行政の風水害対策・地域の防災教育の支援、地域防災支援のためのワークショップ研修など、各分野におけるこれまでの取組事例や研究成果の紹介を行いました。

また、第二部のパネルディスカッションにおいては、気象庁大阪管区気象台地震情報官の菊田晴之氏、高知県土木部河川課長の岩崎哲史氏、（一社）防災活動支援センター理事長の伊藤創平氏をゲストパネリストとしてお迎えし、高知大学として今後地域の防災に貢献していくための方向性を探りました。

農研機構との連携協定締結式が行われました

1月31日、高知県庁にて高知県と本学、高知工科大学、高知県立大学の県内3大学と、研究員約1,800名を抱える国内最大の農業食品研究機関である「農業・食品産業技術総合研究機構」（農研機構、本部＝茨城県つくば市）が連携協定を締結しました。地方大学・地域産業創生交付金事業に本年度採択された高知県の産学官連携によるNext次世代型施設園芸農業のプロジェクト（IoP事業）において、先端技術による生産性向上や省力化、食品の高付加価値化、出荷予測等を図る研究がすでにスタートしており、AI（人工知能）を使ったスマート農業の推進に力を傾注している同機構が最新の知見を活かして研究を支援することとなりました。農研機構は、プロジェクトに専門的な立場から助言する「スーパーバイザー」として参加し、ビッグデータやAIの活用方法、クラウドの構築などの知見をアドバイスする予定です。年間1～2名の研究者を高知県及び大学側からも受け入れ、人材育成面での協力も行います。農研機構のこれまでの取組と大学の研究にかかる進捗が共有され、農業・食品分野におけるSociety5.0の実現に向けた今後の産学官連携への大きな期待が高まっています。

【協定締結式】［写真］左から、野嶋高知県立大学長、磯部高知工科大学長、尾﨑高知県知事、久間農研機構理事長、櫻井高知大学長、受田高知大学副学長（IoP事業責任者）

学生11名が受賞
「平成30年度国立青少年教育振興機構法人ボランティア表彰」

本学の学生11名が、独立行政法人国立青少年教育振興機構法人ボランティア表彰を受賞し、2月6日に、朝倉キャンパスにおいて国立室戸青少年自然の家の小野保所長から表彰状が授与されました。表彰を受けた学生は、国立室戸青少年自然の家において、自然体験活動の各種講習会に積極的に参加し、全国のボランティアメンバーとの交流会を通して情報交換を行う等で指導力を高め、子どもたちを対象とした様々なイベントの運営や企画に貢献したことが高く評価されました。

高知から発信する下水道の未来
第2回シンポジウム「災害に立ち向かう高知家の下水道」

1月29日に、朝倉キャンパスで「高知から発信する下水道の未来 第２回シンポジウム」を高知県との共催で開催し、県内外の行政担当者など約120名が参加しました。「災害に立ち向かう高知家の下水道」を総合テーマとし、国土交通省の石井宏幸下水道事業調整官から国の最新施策、福井市下水道部の小泉和男室長から「下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）」の取組が紹介されるとともに、県内自治体から豪雨対策に関する先端的な取組事例が報告されました。本学からは、研究拠点プロジェクト「革新的な水・バイオマス循環システムの構築」の研究成果が、理工学部門の張浩淮教授より報告されました。

4年間の集大成、地域協働学部卒業研究報告会

2月3日、地域協働学部の4年生（1期生）が、4年間の学びの集大成である卒業研究について学内外のみなさんに報告を行いました。

4年生は、1年次から3年次までの実習での実践と研究の成果を踏まえ、それぞれが自ら見つけた研究課題について卒業研究をまとめました。報告を終えた4年生の顔にはひと息ついた安堵の笑顔と達成感があふれていました。

自然科学系理工学部門の本田理恵教授が参加している「はやぶさ2」プロジェクトが、小惑星リュウグウへの第１回目タッチダウンに成功しました

本田教授は「はやぶさ２」プロジェクトに、搭載カメラの開発や試験、運用、データ解析等で参加しており、2月22日の小惑星リュウグウへの着陸の瞬間（神奈川県相模原市のJAXA宇宙科学研究所の管制室）にも立ち会いました。

「はやぶさ2」H-ⅡAロケット26号機 ©JAXA

【参考】
JAXA宇宙航空研究開発機構 HP

広報誌Lead 本田教授の研究特集記事（2016年春号）

「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」第10期派遣留学生に4名採用

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～第10期に本学から4名が採用となりました。採用されたのは、人文社会科学部2年中西宏樹さん（新興国コース）、人文社会科学部3年荻野なつれさん（多様性人材コース）、地域協働学部3年中崎志保さん（新興国コース）、大学院総合人間自然科学研究科理学専攻1年東慎也さん（理系、複合・融合系人材コース）です。4名は2019年4月から10月の間に留学を開始する予定で、中西さんは途上国向けソーシャルビジネス起業に向けた現地ニーズ調査、荻野さんは高知商業高校ラオス学校建設活動の現地フォローアップ協力を通して文化人類学の実践研究、中崎さんはカンボジアでアグリビジネスを営む企業でインターンシップ、東さんはオーストラリアの大学でポリオキソメタレート錯体の研究を行うという留学計画です。

高知大学から寄附のお願い

高知大学修学支援基金
本基金は、修学意欲を持ちながら、厳しい家計状況によりそれを断念せざるを得ない学生に対して給付する奨学金として活用します。

高知大学さきがけ志金
高知大学の理念である『地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問、研究の充実・発展を推進する』ため、これらに対する事業の支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的とします。

- **対象者／本資金の趣旨に賛同いただける個人・法人・団体等**
- **金　額／個人による寄附金につきましては、1口1千円を単位とします。法人・団体等による寄附金につきましては、1口1万円を単位とします。**（本志金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口でのご協力をお願いします。）

お問い合わせ先
高知大学総務部総務課
TEL:088-844-8100 FAX:088-844-8738
E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp URL:http://www.kochi-u.ac.jp/

「高知大学修学支援基金」及び「高知大学さきがけ志金」（教育・研究・社会貢献活動による支援）に寄附を行う際に、**インターネット決済サービスによる「クレジットカード決済」、「コンビニ決済」、「Pay-easy決済」がご利用いただけます。**

高知大学古本募金
読み終わった本で高知大学をご支援ください。高知大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が高知大学に寄附される取組です。古本募金を通じて集まった寄附金は「高知大学さきがけ志金」として受け入れ、本学の教育研究・社会貢献活動の向上のために役立てられます。

●お問い合わせ先 0120-29-7000（受付 9:00～18:00）
高知大学古本募金 検索
運営協賛：古本募金きしゃぽん(嵯峨野株式会社)

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

Event information イベントインフォメーション 2019 Spring 春号

8月3日(土)・4日(日) オープンキャンパスのお知らせ

平成31年度のオープンキャンパスは、8月3日(土)、4日(日)に開催いたします。企画の内容、日程等の詳細は、決まり次第、順次ホームページに掲載します。

岡豊キャンパス

物部キャンパス

朝倉キャンパス

11月2日(土) ホームカミングデー

高知大学卒業生の皆様、第10回目となるホームカミングデーは、11月2日(土)に開催します。詳細は、7月頃に大学ホームページでお知らせする予定です。ぜひご参加ください。

第9回記念講演講師／神田 優 氏

他にも様々な
内容をご用意しています
お誘い合わせの上
ぜひお越しください!

平成31年度 学年暦(予定)

高知大学の授業等に関する年間スケジュールです。

4月～6月

4/2(火)	新入生オリエンテーション
4/3(水)	入学式
4/4(木)	在来生オリエンテーション
4/5(金)～8(月)	第1学期履修登録期間 (新入生は4/6～8まで)
4/10(水)	第1学期授業始

7月～9月

8/2(金)～8(木)	第1学期試験期間
8/3(土)・4(日)	オープンキャンパス
8/9(金)～31(土)	夏季休業
9/1(日)～30(月)	特別授業期間
9/20(金)	秋季修了式
9/24(火)～26(木)	第2学期履修登録期間

10月～12月

10/1(火)	創立記念日
10/2(水)	第2学期授業開始
10/10(木)	秋季入学式
10/12(土)・13(日)	南風祭(岡豊キャンパス)
11/2(土)・3(日)	黒潮祭(朝倉キャンパス)
11/3(日)	物部キャンパス1日公開
12/27(金)～1/6(月)	冬季休業

1月～3月

1/18(土)・19(日)	大学入試センター試験
1/31(金)～2/6(木)	第2学期試験期間
2/7(金)～29(土)	特別授業期間
3/1(日)～31(火)	学年末休業
3/23(月)	卒業式・修了式

高知大学の最新情報を伝えたい THE こうちユニバーシティCLUB

高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。

スポンサー企業
ソフテック／アークエステート

●FM 高知(81.6MHz) 放送中
毎週 日曜日(9:30～9:55)

高知大学のHPまたは番組ブログで過去の放送が視聴できます!

●**WIZ RADIO(ラジオ視聴用の無料アプリ)**をダウンロードいただくとFM高知の放送が全国どこででもスマホで視聴できます!

お知らせ

広報誌Leadのバックナンバーを
高知大学のHPでご覧いただけます。

●お問い合わせ先　皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

高知大学
Kochi University
高知大学総務課
高知大学 検索
http://www.kochi-u.ac.jp/
TEL.088-844-8643
FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

※誌面の学年と役職は制作時のものです。